

佃島念仏踊

調査：若林里枝

調査日：2013年7月13日~15日

場所：東京都中央区佃島

地下鉄有楽町線月島駅から隅田川に向かって歩いて行った下町情緒を残る場所で、毎年7月13日~15日の3日間踊られている。江戸時代、元は、西本願寺の消失がきっかけで始まったとされており、また岡山県白石踊りとの類似性から漁業関係者が海路を渡り、はるばる佃島にも伝えてきたと考えられている。

月島駅から向かい、小さな橋を渡ると50メートルほど先に櫓が立っているのが見える。そこが祭りの会場である。その周りには昔ながらの商店や家々が立ち並んでおり小さな空間になっている。私が訪れたのはもう祭りも終わる21時くらいであったが、その小さな空間にかなりたくさんの人たちがいた。その人だかりの隅の川沿いに「精霊棚」と書かれた白黒幕が吊るされた台が用意されており、「念仏踊りを踊る前に必ずお参りしてから踊るように」と地元の方に注意を受けた。

佃島念仏踊りでは、華やかな屋台やお飾りなどは一切出ない。先祖の霊や無縁仏の霊を供養するという目的を今でもしっかりと受け継いでいる質素なものである。

踊りの動きは、なんとも単調でゆっくりだ。自転しながら公転していく動きをただひたすらゆっくり踊っていくのだが、こんなにも単調な動きなのに全く飽きがこないし目も回らない。なんと言ってもその単調さが心地よく感じられてくるのだ。まるで、揺りかごに乗って揺れているように、ぼや~っと世界がまどろんでくる感覚がした。そして、その揺りかごに念仏踊りを一緒に踊っている人たちみんなと揺られているような一体感も感じた。

踊っている人たちは地元の人々ばかりではなく地元以外の人々もかなりいるようだった。私のように当日突然来て踊っている人もちらほらいて、動きをいつまでも覚えられずたどたどしく踊っている人もいた。そんな、出身地も踊りの経験も全く違う大勢のひとが踊っている中でも、あたかも初めて踊るのではないような共有感を味わい、踊りの持つ力を感じずにはいられなかった。

供養のために踊る踊りだという事を地元の人たちが厳しく守ってきたからなのだろうか？ それとは関係なく、そもそも踊りに内包されている力の強さなのだろうか？その緩やかな一体感を味わっている間は、全くのよそ者の自分をこんなにも受け入れてくれたという感謝の気持ちすら感じた。

